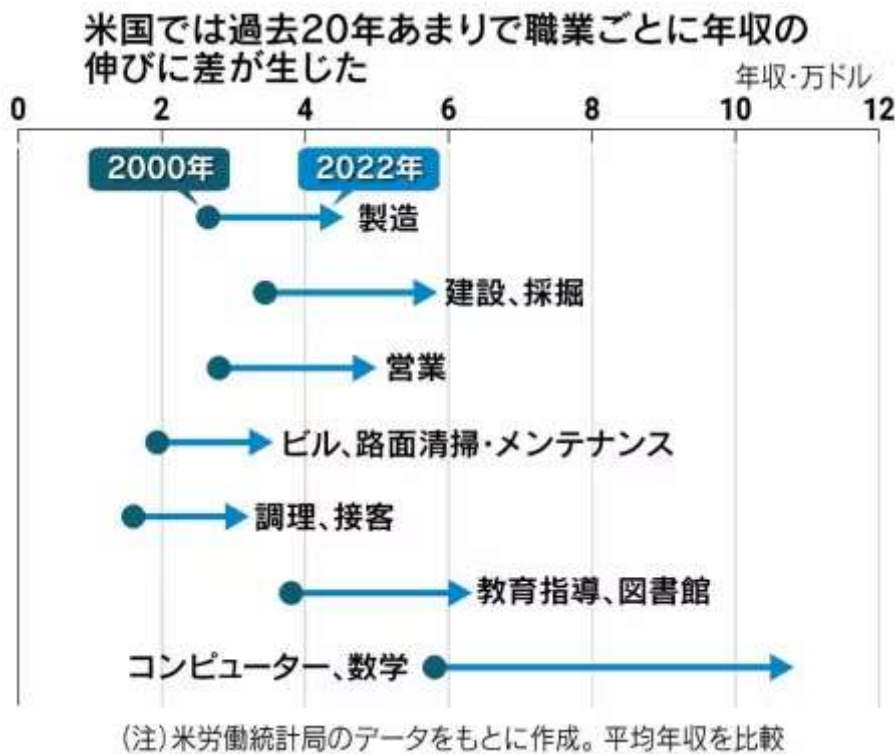


〈テクノ新世〉AIは脅威か？迫る労働革命 新職種創出・業務の25%自動化...新たな成長の起爆剤に

2023/7/7付 | 日本経済新聞 朝刊

18世紀後半に始まった産業革命以降、テクノロジーの進化は人々の働き方を様変わりさせてきた。文章や画像を生成する高度な人工知能（AI）の登場は、その傾向に拍車をかけている。幅広い知的作業を代替する懸念が広がる一方で、経済成長の起爆剤になるとの期待が高まっている。



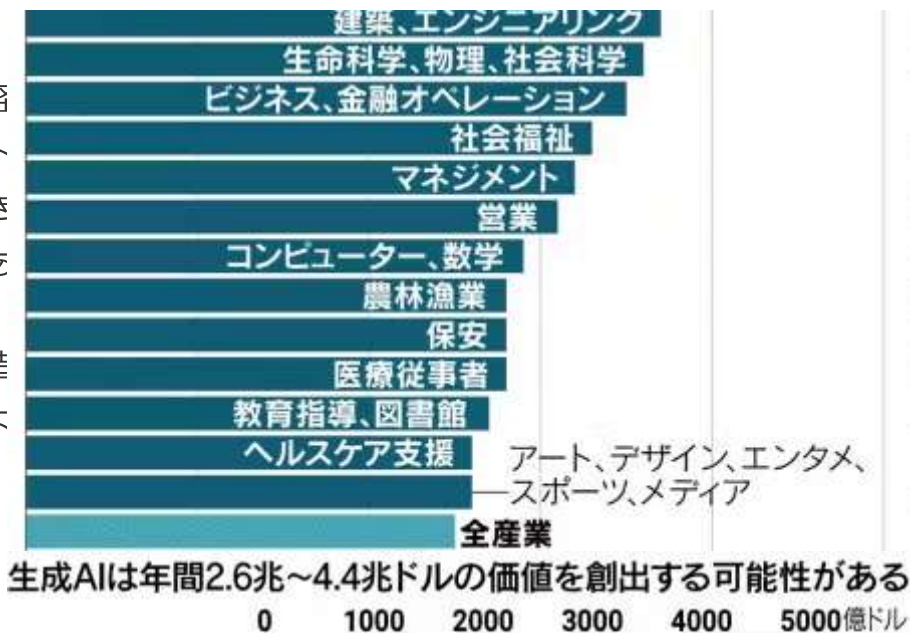
過去20年間の人々の働き方に大きな影響をもたらしたのはインターネットやスマートフォンの普及だ。デジタル分野のスキルを持つ人材の需要が高まり、ソフトウェア開発者やデータサイエンティストといった職業に就く人々が高い収入を得るようになった。

米労働統計局の職業別のデータによると、「コンピューター、数学」関連の平均年収は2022年に約10万8000ドル（約1500万円）となり、約20年前の2倍近くに増えた。同じ期間に「調理、接客」や「営業」、「製造」といった職業の平均年収も伸びたが、その水準は「コンピューター、数学」の3～6割ほどにとどまる。



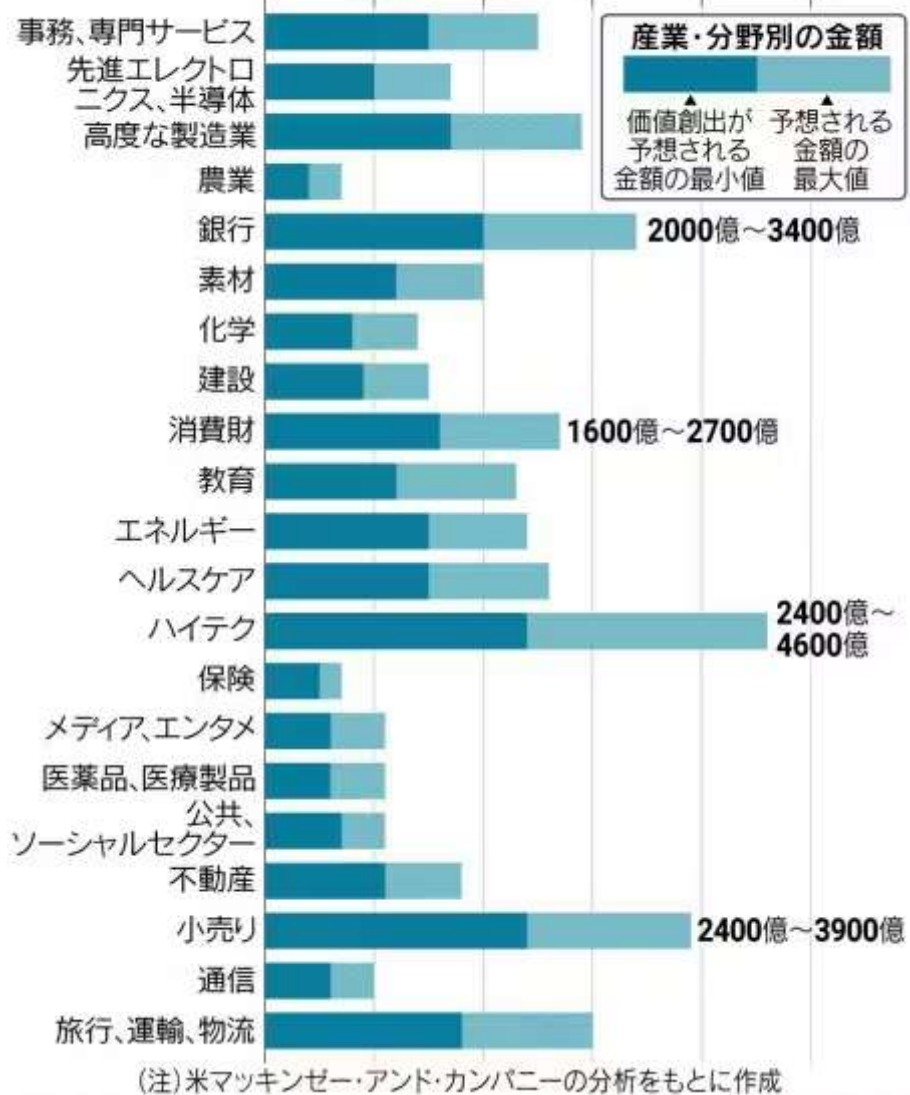
では生成AIは経
とめたリポート
特に影響が大き
わる可能性があ

労働市場に創造
面する日本のよ
になる。



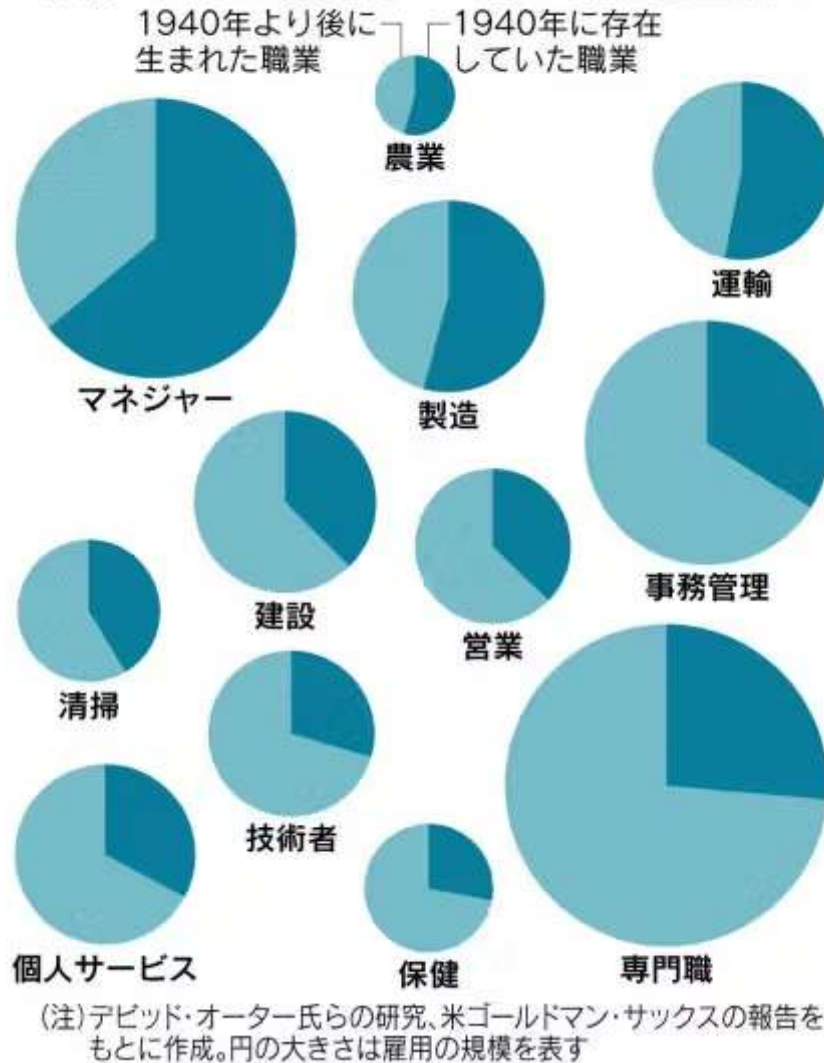
「スは3月にま
算を公表した。
務がAIに置き換

。人口減に直
る発想が必要



米マッキンゼー・アンド・カンパニーは生成AIの活用が進むと世界で年間2兆6000億~4兆4000億ドル（約370兆~約630兆円）の経済価値がもたらされると予測する。「ハイテク」（最大4600億ドル）や「小売り」（同3900億ドル）を中心に恩恵は幅広い業種に及ぶ。

技術の進化は専門職などで新たな雇用を生んだ



米経済学者デビッド・オーター氏の研究などによると、現在の労働者の60%が1940年には存在しなかった職業に就いている。過去80年間の雇用増加の85%以上が技術による新しい職種の創出によって説明できるという。長い目でみると、生成AIをはじめとする先端技術は新たな仕事を生み出す可能性がある。

(生川暁、樋口裕子)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.